

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程エキスパートコース学生を対象とするカリキュラムの適切性を継続的に検証し、必要に応じて改善する。	→「プログラム別学生数」「専攻科目」「履修科目」「学生に対するプログラム選択理由等についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における調査結果の分析および改善提案」	B	B	B	B	
2. 前期課程社会人入学者を対象とするリサーチワークの拡大について検討し、順次実施する。	→「リサーチワーク対応の科目数」「前期課程社会人入学者を対象とする研究指導のあり方についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における検討およびその進捗状況の報告」「規定改正ないし内規改正」	C	C	C	C	
3. 前期課程および後期課程における学生の多様な履修期待に対応するために特講科目等を活用する。	→「(副題の異なる)特講科目等の開講状況」「特講科目等の履修者数」「特講科目等を開講するための各プログラムおよびプログラム間の調整手続の整備状況」	B	B	B	B	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	プログラム別に学生にプログラム選択理由を問うアンケートを実施、FD委員会、大学院問題委員会で分析検討した。問題点については、制度的な改善案より個々の教員の指導に委ねることとした。
目標2	前期課程社会人入学者に対しては、高度職業人養成の枠内で対処しており、リサーチペーパーの審査基準、評価項目も内規化した。社会人入学者に絞った特別な制度枠組は出来ていない。院生アンケートは社会人入学者を分ける形で行っており、綿密に分析し、今後に生かしたい。
目標3	公共政策プログラムでは、公共政策特講を開講、兵庫県庁との協定により実務経験豊かな講師が派遣されている。また、司法研究科教員等に依頼し、基礎法特講（陪審制度と裁判員制度との比較）、民事法特講（フランス民事法）等、院生の期待に応える幅広い科目が受講できるように工夫している。
備考	